

過去問 倉敷中央病院 ジュニアレジデント公募試験 小論文

注意事項：配布されたら以下の注意事項をまず確認すること。

試験官の指示があるまで、問題文を先に読んではいならない。

まず、自分の受験番号と希望コース、氏名を以下の記入欄と解答用紙に記入すること。

時間は70分である。問題用紙は表紙も含め3枚、解答用紙は1枚である。試験開始の時点で落丁などがいないか確認すること。

問題は1問である。文章を読み2つの設問に答えること。

解答用紙とともに、問題用紙も回収する。

受験番号 _____ コース（内科総合・内科選択・外科系・産婦人科）

氏名 _____

問題：以下の文章は、自分の病名告知の体験を42才の女性が書いたものです。この文章を読み、設問に答えなさい。

注) 人物の説明 カップ君：著者の夫 テルちゃん：著者の仲のよい叔母

2004年 冬

1月20日。

いよいよ検査結果報告日。

カップ君、カップ君のママちゃん、テルちゃん、そして私の4人は夜6時、病院で待ち合わせる。

私は気分だけは麗（うら）らかでいようと、桃色に色とりどりの細かい糸で紡がれたツイードのコートを着て来た。昼間の顔とは違う、人影の少ない病院のロビー。窓ガラスに映る私の姿は狂い咲きした春の予感を告げる花のように、冬の寒々しい灰色の闇に映える。

こうでなきゃ。

私はこれからやってくるどんなことにでも立ち向かうんだと、ポケットの中の握り拳を今一度力強く握りしめた。

初めて入る入院病棟。右に内科、小児科などの病棟が、左に産婦人科病棟がある。夕食の配膳のワゴンが見える。ちょうど夕食が終わった頃なんだろうか。公衆電話で電話をかける人、談話コーナーで面会者とおしゃべりする人などがちらほら見えた。

時間通りに先生がやって来る。

カルテだろうか。大きなファイルを抱えている。いかにも重そうなそれを静かに置くと、

「では、お話よろしいでしょうか」

と先生の最初の言葉が出る。

でも私には部屋中が真空状態になって何も聞こえない。

先生の口がいろんなカタチに開いてなにか言葉を発しているのが見えるだけで、なにも聞こえない。だがすぐみんなから漏れるため息の音で、その真空状態から現実の空気感のサーツという細かいノイズが混じる世界に戻った。

みんなの表情は雨に濡れた雪だるまみたいに無惨に溶けかかって誰も私と目を合わせようとはしない。

私の病名は子宮頸癌。

癌の種類は角化型扁平上皮癌。

進行期は1b(2)期

生存率は60%とも70%とも言われる。

頸ってなによ。

扁平上皮ってなによ。

進行期って誰が決めたの？

生存率60%だの70%だのってなんなのよ。

頭の中に真っ白なフラッシュを浴びた。

地球の奥からがたがたと地響きが起き、床が私の足元でまっふたつに裂け、そのまま股の間でメリメリと音を

立ててカラダ全身を突き破るかの如く、その寸前で何かがドスンと鈍い音とともに子宮にぶち当たった。低いうめき声をあげ、子宮が何かを受け止める。全身の力が抜け、子宮だけで私全体を支えているみたいだった。

氷砂糖のように硬くて不透明な涙がポロポロ溢れた。拭(ぬぐ)っても拭っても拭いきれない硬くて冷たい涙。呻き声が漏れ、そのまま口を開いたら号泣し取り乱しそうだった。急いでカバンから取り出したハンドタオルを口に押し当てた。誰もが伏せ目がちにこちらへ視線をやったが、私は大丈夫と、息を殺しガタガタとタオルを持つ震える右手を左手で押さえつけた。

先生が声をかけた。

「大丈夫ですか？」

説明が始まる。

先生が何か喋っている。メモを取らなきゃ。

こういう時の為にICレコーダーなどを廻す人もいると聞いた。スパイみたいで嫌だなと思ったが、それがいまなんとなくわかるような気がした。

メモ帳を開く。

「もう少し机、寄せませんか」

おもむろにカップ君がひょっこり席を立つ。妙に緊張する距離感を縮めてくれる。動かない張りつめた部屋の空気がふんわり動く。

先生の説明は言葉の洪水のように感じた。A

そのまにまにメモ用紙にペンを走らせる。メモ用紙にペンのインクが出ては、文字ひとつひとつに書き綴られてゆく。こういう時は書くに限る。涙のレンズで文字すら見えなくとも、私は書くことに意識を集中させた。

治療に関しては広汎子宮全摘手術を薦められた。要は子宮、卵巣、骨盤内のリンパ節、それらを支える靱帯、膣の一部、それらを全部取るという手術だ。外科的手術で最初にどれだけの癌細胞を取り除けるかが、重要なのだそうだ。

他にはないだろうか。他にできる治療として、放射線治療や抗癌剤治療もあると聞く。難しい医学用語が時折混じる。わからないことはすぐ質問し、先生は3時間近くかけて、懇切丁寧に説明してくれた。

「正直、今すぐに決断できないです」

私は困ったようにそう言う。

「 B 」

近々にご返事しますと、深々と頭を下げて部屋を出た。

洞口依子「子宮会議」より 一部省略

設問1 下線 A の内容について、あなたが臨床講義・実習や病院見学で見たり聞いたりした「医師の説明が洪水のように感じられない工夫」の例を一つあげ、わかりやすく説明しなさい。注意点：医学部に入学したばかりの学生に判るように、どのような状況で、どのように工夫した方法であったか具体的にまとめること。

設問2 「 B 」には医師が著者に対して語った言葉が記されていました。告知を終え、動揺している著者の「今すぐにできない判断」を促すために、どのような言葉を書けますか。この状況にふさわしいと考える医師の言葉を書きなさい。注意点：内容の説明ではなく、状況と話し相手を考慮して、適切と思われる実際の話し言葉として書くこと。1文にまとめず、必ず複数の文にすること。

解答用紙

受験番号 _____ コース (内科総合 ・内科選択 ・外科系 ・産婦人科)

氏名 _____

設問1 わかりやすくまとめること

設問2 複数の文にすること
